

JRS2014 CT コログラフィートレーニングコースに参加して

小樽掖済会病院 平野雄士

またまた、今年も CTC のトレーニングコースのお話です。

例年の如く、大会初日の 4 月 10 日木曜日に午前 10 時から他の J R C プログラムに先駆けて開催された。夜 6 時までの長丁場だ。最初に WS メーカー（ザイオ、A Z E、F U J I、東芝）から各 WS の特徴が紹介された。続いてサンライズクリニックの国枝栄二先生が『クリニックにおける大腸 C T 検査の実際』というタイトルで前処置から撮影、レポートまでの状況を詳しく講演していた。当施設の方法とは食い違う部分もあったが、それはそれで上手く出来ているようなので参考になった。

Overseas lecture のセミナー講師はイタリアのロベルト先生で欧州の C T C の様子も日本とそう変わらない状況であることを実感した。ひょっとしたら日本のほうがやり方に多様性があるかもしれない。別の言い方をすると日本は統一性に欠けている。ランチョンセミナーの小林先生の『早期大腸がんの注腸 X 線・内視鏡診断』の講演は C T C の診断能を向上させる留意点を非常に簡潔にまとめた素晴らしい内容であった。そして、セミナーはそのままハンズオントレーニングへと進む。



CTC トレーニングセミナーの会場

今年とは違い医師と技師が同一の会場でハンズオンを行った。今年が目玉はザイオの大腸解析ソフトに搭載された **PhysioEnhance Filter** だろう。これはGEのWSに搭載されている **Colon VCAR(Volume Computer Assisted Reading)**のと同様に病変の特徴をもつ部分について色調を変えて表示してくれる診断サポートシステムである。

大腸解析ソフト開発当時から懸案だったCADの領域に少しずつ近づいているようだ。

またメーカーの違う大腸解析ソフトであるのに関わらず、各社同じようなレイアウトになってきていることが目を引いた。画面を遠目に見るとわからないくらいによく似ている。

メーカーにより操作性や解析法が変わってしまうことでCTCの読影能力に影響を与えることを危惧していたので、良い傾向であると思う。その上で診断能向上の独創性を発揮して頂きたい。

トレーニングコースは相変わらず募集は一日で埋まってしまいう状態らしい、しかし全体の80%くらいは新規に参加された先生である。まだ参加したことがない方がいたら是非、次回、参加してください。